

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0892200015		
法人名	有限会社茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホームこころ鹿嶋館	ユニット名(	ひまわり)
所在地	茨城県鹿嶋市林1020番地2		
自己評価作成日	平成30年 1月24日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成30年 2月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者一人ひとりとゆったり関わりながら、入居者が自分でできることはやっていただき、共同生活の中での役割を1人ひとりに持ってもらい生き生きと笑顔が見れる生活が毎日送れるように支援しています。また広々としたデッキがあるので車椅子の方でもいつでも外気欲を楽しんだり、家庭菜園で野菜を収穫したりできる環境がある。収穫した野菜などは食材として食卓に出したりしています。味噌、梅干し、らっきょ、切り干し大根など毎年利用者と一緒で作って食べている。入居者同士が助け合いながら笑いのある生活空間作りを心掛けています。また地域のイベントには参加させて頂き地域の方々との関わりを深めながら明るく元気に楽しく生活しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の理念通りに、利用者がその人らしく笑顔でゆったり過ごせるよう、代表者は新人教育をはじめとして、職員が働きやすくなる環境づくりに努め、職員は笑顔で支援できるように努めている。職員と利用者で、差し入れの大根で切り干し大根づくりをするほか、乾燥芋、梅干しやラッキョウを漬け、味噌など保存食を作り、機能低下防止を兼ねるとともに利用者の楽しみにもなっている。事業所は食事は大切と考え、現在夕食は宅配業者を利用しているが、今後は利用者の嗜好にあった食事を提供できるように準備している。職員は利用者が部屋に閉じこもらない生活ができるように支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念に基づいたケアを目指して全職員で取り組んでいる。	地域密着の意義を踏まえ、利用者の笑顔を第一に考えた理念を、職員採用時のオリエンテーションで説明するとともに、月1回の職員会議時に唱和し、理念に基づいたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント等に積極的に参加している。また、定期的にボランティア(ハーモニカ・大正琴等)の方々と交流している。	地域の祭りや市民運動会に参加し、情報交換や交流をしている。地域のボランティア団体を受け入れ、利用者は、音楽や踊りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域イベントへ参加することで、地域住民の方々に入居者と触れ合ってもらい理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で出た意見を取り入れ業務の改善に取り組んでいる。	開催日を奇数月の最終金曜日と決めて、家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員等が参加して、意見交換等を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催案内を届けた時や、運営推進会議に出席された職員等にホームの状況を報告したりして協力関係を築いている。	運営推進会議の議事録やお知らせを持参し、窓口を訪問しているほか、月1回程度市担当者に電話を入れて相談や情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束』について』の勉強会を開催し、全職員が内容の理解に努めている。	身体拘束排除に関するマニュアルに基づき、内部研修を定期的に行っている。日々の支援においても身体拘束と思われる行為を行わないよう気をつけるとともに、職員に根気強く説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者の虐待』について』の勉強会を開催し、全職員が内容の理解と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『権利擁護』についての勉強会を開催し、全職員が内容の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、時間をかけて説明することを心掛け、利用者や家族に契約内容の理解と納得が得られるようにしている。特に利用料金等に関しては事細かに説明し不明な点が無いようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは普段の生活の関わりの中で、家族とは面会時や運営推進会議に出席された時に、意見や要望等を聞き出せるようにしている。また年2回書面にて意見・要望等を汲み上げている。	家族等の訪問は多く、少なくとも月1回は来訪するので、家族等とコミュニケーションを取ることを心掛け、なんでも話し合えるような関係を築いている。家族アンケートを行い、懇親会の際に結果報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや申し送りの中で意見や提案を出してもらい話し合いをしている。また個人面談等で職員の意見・要望等を聞き出し仕事がしやすい環境作りに取り組んでいる。	代表者はゆっくり職員と話せる夜勤の時間を利用して、意見などを聞いている。職員からの意見で、職員も入浴介助しやすく、利用者の安全を考え高さ調整可能なシャワーチェア等を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自由に有給休暇を取得できるようにしている。また定時帰宅を促している。研修会等には職員の希望や経験年数を加味しながら参加できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は、経験の有無に関係なく新人研修マニュアルを用いて教育・指導を行っている。また経験年数に応じて必要な研修・講習会等に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流をはかり、職員が訪問したり受け入れしたりして良い所を吸収しあえるように努め、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、アセスメント情報等を基に積極的に関わりを持ちながら利用者の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と会話する中で、家族が不安に思っている事などを聞き出したりして家族の相談にのりながら信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と懇談する中で、家族の不安な思いなどを聞き出し少しでも改善できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	童謡や昔の歌謡曲など職員と一緒に歌ったり、家庭菜園の水かけをしたり、一緒に家事をしたりしながら役割を持った生活を共にしている、また利用者同士が共に支え合う暮らしをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会(4月)やホーム行事等に参加して頂き、家族と一緒に食事やレクリエーションを楽しんだりしながら家族との絆を大切にしている。また家族交流会等で家族と懇談的に話し合いができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が面会に来て下さった際に、ゆっくり会話ができるような環境を提供している。また本人が行きつけの店に買い物や外食に出かけたりしている。	入居時の聴き取りや、日々の会話等から馴染みの関係を把握し、ミーティングで話し合っている。面会者にはお茶を出してゆっくりと話ができるよう配慮したり、馴染みの場所へ外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション・家事等を通し、利用者同士が会話がしたり、一緒に行くことで楽しんだりしている。また孤立しないよう声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了(死亡・長期入院・退所)しても、御見舞いに行ったり、暑中見舞いや年賀状のやりとりなどして関係性を保つようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族との会話の中で、希望や意向などを聞き出し、内容によっては随時職員と話し合い、本人・家族が望む生活が送れるよう話し合っている。	毎月利用者ごとに「こころカンファレンス用紙」を作成し、全体会議で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅にいた時と同じような生活リズムで過ごせるように本人や家族とのコミュニケーションを大切にしながら生活歴などを聞きながら今までの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力(出来る事)を把握し、強制せず出来る事はしていただいている。また各自の心身状態の維持向上を目指し本人にあわせた体操等を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で気づいた事や、本人・家族の希望や意向を基にカンファレンス等を行い介護計画を作成している。介護認定更新時や状態の変化があった時は一定期間後にモニタリングを行い評価結果を参考に作成。	利用者や家族等の希望や意向を聴き、看護師や職員と話し合い、作成している。家族へは基本的に郵送は行わず、面会時に説明をしている。モニタリングを3ヶ月ごとに行い、基本1年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化や日々の様子、生活記録を振り返りながら職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子や本人の言葉を記録し、全職員が利用者一人ひとりの情報を共有できるようにしている。またその情報からその人に合ったニーズを見つけ出し支援できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	菊花展や鹿島神宮参拝、お花見・かしままつりなど季節行事や地域開催のイベントなど等に参加できる機会を多くして楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、かかりつけ医療機関に受診している。また、かかりつけ医師の指示の基、定期的に健康診断を受けている。	協力医療機関への受診は職員が付き添っている。かかりつけ医への受診は基本家族等が付き添い、バイタル表や体調等を記載した紙を渡している。状況によっては職員が有料で付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来た時に、利用者の状態などを伝えながら対応について確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、看護師から病状の説明を聞きなるべく早期退院できるように連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いながら対応方針について検討している。また、主治医に状況を報告し指示を仰いでいる。ターミナルケアについての勉強会を開催し、チームケアができるように努めている。	「当施設での看取りに関する同意書」で、現時点では看取りを行わないことを明記し、同意書を得ている。年1回内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアル(応急手当・急変時の初期対応)を基に勉強会を開催している。また体調が急変した時は管理者に連絡し、状況により直ぐに駆けつけられる体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施(年2回)。実施後は振り返りを行い反省点等を記録して今後の訓練に活かせるようにしている。民生・児童委員の方をおし、地域の方々に協力をえられるようにはたらきかけている。	災害に備えた備蓄品を、一覧表を作成して管理している。避難訓練を年2回行っているが、夜間想定を訓練を行うまでには至っていない。	夜間想定を含む避難訓練を行うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりにプライバシーを配慮した対応が職員間で統一されて出来るようミーティング等で話し合っている。また利用者の希望で自室ドア窓にプライベートカーテンを取り付けてプライバシーに配慮している。	言葉かけに配慮しているほか、本人の意思を尊重し、強制することがないよう気をつけている。居室の入り口ドアの窓ガラスにカーテンを取り付け、プライバシーに配慮している。個人情報保護に関する同意書がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のちょっとした表情の変化や行動と発言した言葉に注意しながら、利用者への声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重しながら、利用者のペースに合わせ、塗り絵やかるたとり・カラオケなど行ったり、デッキに出て外気よく楽しんだりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好きな服を選んで着みたり、職員と一緒に服を買いに行けるよう支援している。また外出時やイベントの時などに化粧をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜を切ったり食事の用意をしたり食器拭きをしたりしている。また家庭菜園でできた野菜を収穫し食材として食べたりもしている。また本人や家族に嗜好を聞きメニューとして食卓に出したりしている。	利用者は、野菜の皮むきやテーブル拭きなど、出来ることを職員と一緒にやっている。外食や、季節ごとの行事食を提供し、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や体重、排尿量によって食事や水分の摂取量の調整をしている。また健康状態によっては、お粥・刻み食・トロミ食などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い残物等が無い確認している。自力のできる利用者には見守りや声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しながら、適時にトイレ誘導したり、トイレに行かれた時はプライバシーに気を付け声掛けし見守ったりしている。	排泄チェック表や個人記録から、それぞれのパターンを把握し、トイレに誘導している。水分をしっかりと摂ったり、ココアやコーヒーに牛乳を入れて提供するなどして、スムーズな排泄の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分摂取したり、食物繊維の多い食材を使った献立にしたりしている。また個別に歩行訓練や軽い運動など行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日以外でも体調や希望に沿った入浴が出来るよう支援している。また利用者の希望を聞き、一番湯や終わり湯。足湯、入浴剤を使ったり工夫している。	入浴は、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。楽しみとなるよう、季節に合わせてゆず湯を行ったり、入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換・布団干しを行い清潔保持に努めている。本人が『寝たい』と訴えがあった場合やリビングで寝ている時は和室や居室で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方通りに服薬している。また薬の変更や追加があった場合には医療情報に記入し、全職員に必ず情報を伝達している。また必要に応じて医師と家族と本人に相談しながら薬を減らす取り組みをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や買い物、家庭菜園の水かけなど役割を持ってもらい、生活に張り合いが持てるように支援している。また外出行事を楽しんだり、切り干し大根や梅干し作りなどを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬を除く季節には定期的に外食やドライブに出かけたりしている。また散歩に出かけたりして近隣在住の方々との挨拶や会話を楽しんでいる。利用者の希望で行きつけのお店に行けるよう支援している。	寒い季節は控えているが、近隣を散歩するほか、行きつけの店に買い物に出かけている。ウッドデッキに出て外気浴を楽しんでいる。年間行事計画を立てて、ドライブに出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物や本人が希望するものは、施設側で一時立替えている。また職員と一緒に買い物に行かれた時は個人で支払いできるように支援している。家族同意のもと個人で金銭を所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族に電話したいときに自由に電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビング等に季節の花や季節感のある小物などを置いている。また和室やソファでゆっくり会話しながら過ごせるようにしている。利用者の家族様の書いた絵画をリビングに飾っている。晴れの日にはデッキに出て日光浴を楽しめるよう支援している。	玄関は、ベンチの下が靴箱になっていて外出しやすくなっている。居間兼食堂は広く、日当たりがよい空間で、加湿器を使い湿度に配慮している。小上がりの和室があり、炬燵やテレビ、姿見などが置かれ、寛げるようになっている。浴室は浴槽の左右に空間があるため介助しやすくしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキが広いので、車椅子でも自由にデッキに出て気分転換をはかれるようにしている。また和室やソファでゆっくりできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、本人が家で使い慣れた親しんだ鏡台や椅子、タンスなどを持ち込んで使用していただいている。	居室にはエアコンやベッドが備え付けられており、整理筆筒は地震がきても引き出しが飛び出ないものが置いてある。利用者はそれぞれに使い慣れた、馴染みの物を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状態に応じて居室をトイレに近い場所にしたり、自室がわかるように入口に大きな名前札を設置している。デッキ出入口には安全の為、背丈に合わせた飾りテープを張りガラス戸があることがわかるようにしている		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームこころ鹿嶋館

作成日 平成30年 4月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定を含む避難訓練が実施されていない。	夜間想定を含め地域住民が参加しての避難訓練を実施する。	運営推進会議に出席される委員の方に協力して頂き避難訓練を実施する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。